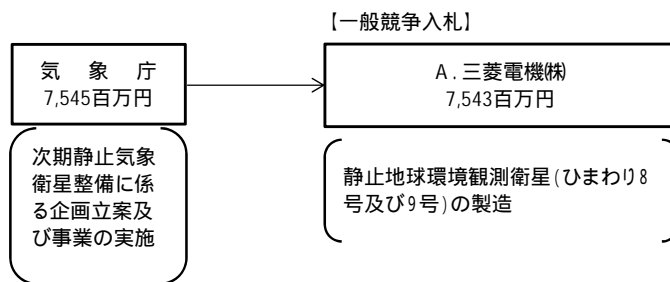


平成23年行政事業レビューシート (国土交通省)

<b>事業名</b>	次期静止気象衛星整備		<b>担当部局庁</b>	気象庁		<b>作成責任者</b>	課長 定村 努	
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成17年度～平成28年度		<b>担当課室</b>	観測部気象衛星課				
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>施策名</b>	10 自然災害による被害を軽減するため、気象情報等の提供及び観測・通信体制を充実する				
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	気象業務法 (第3条、第4条、第11条 他)		<b>関係する計画、通知等</b>	防災基本計画(昭和38年策定) 宇宙基本計画(平成21年策定) 世界気象監視計画(WMOによる昭和38年開始)				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に、3行程度以内)	国民の安心・安全に寄与する防災情報の作成及び地球環境の監視に欠かせない静止地球環境観測衛星を平成26・28年度に打ち上げるための整備を着実に推進する。							
<b>事業概要</b> (5行程度以内、別添可)	観測手段が少ない太平洋上からユーラシア大陸まで広く包括的に観測するため静止気象衛星を整備しており、現在運用している静止気象衛星ひまわり6号・7号の運用期間は平成27年度までを予定している。この運用期間が満了する平成27年度まで以後継となる静止気象衛星を整備する必要があり、また、衛星本体1機の製造期間が5年程度必要なことから、平成21年度から次期静止気象衛星ひまわり8号及び9号の製造に着手している。また、観測データは台風監視等の防災上の観点から重要なデータであり、機器故障等によるデータの欠落を防ぐためバックアップ体制をとっており、次期衛星においても引き続き2機体制の整備を継続するものである。なお、宇宙空間における静止気象衛星の運用期間は、現行衛星では1機あたり5年であるが、次期衛星では1機あたり7年に運用期間を延ばし長寿命化を図ることとしている。							
<b>実施方法</b>	直接実施	業務委託等	補助	貸付	その他			
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
		当初予算	46	7732	7546	6814	8116	
		補正予算	0	0	0	0		
		繰越し等	0	0	0	0		
	計	46	7732	7546	6814	8116		
	執行額	46	7732	7545				
執行率(%)	100%	100%	100%					
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	成果指標		成果実績	単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)
	現行衛星ひまわり7号の運用期間が平成27年度に終了するため、防災上重要な衛星の観測データが欠落しないよう次期衛星ひまわり8号を平成26年度に打ち上げ、平成27年度の運用開始を目指す。また、バックアップのひまわり9号を平成28年度に打ち上げ、平成29年度の運用開始を目指す			-	-	-	-	目標:運用開始 ひまわり8号 H27 ひまわり9号 H29
			達成度	%	-	-	-	
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標		活動実績 (当初見込み)	単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	次期衛星製造進捗率			%	-	36.00%	60.70%	( ) ( )
<b>単位当たりコスト</b>	3,773 (百万円/機)		算出根拠	H22予算執行額/衛星機数				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	職員旅費	3	4					
	静止気象衛星制作費	6811	8112	・ロケット打ち上げ業務等の増 3,055百万円 ・衛星本体制作費の減 1,753百万円				
	計	6814	8116					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況		広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
		国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
		不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途		支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
		単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績		他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
		適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
		活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
		類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
		整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>・静止気象衛星は宇宙空間において長期間の運用を行うものであり、精密性及び堅牢性を求めるため1機あたり5年程度の製造期間が必要である。各衛星を平成26年度及び平成28年度に確実に打ち上げるためには本事業を継続する必要がある。</p> <p>・本事業は、一般競争入札で請負業者を決定し国庫債務負担行為により行っており、各年の事業進捗見込みに応じた支出を予定している。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	<p>本事業は、平成21年度に締結した複数年契約であり、必要性・緊急性とも高く、現状通りとする。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>ロケット打ち上げ業務等要求による増額。 チーム所見のとおり必要性・緊急性が高い事業であり、整備計画に従い現状どおり着実に推進する。</p>			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			



旅費  
2百万円

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を  
行っているか  
について補足  
する)(単  
位:百万円)

A.三菱電機株			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
備品	静止地球環境観測衛星(ひまわり8号及び9号)の製造	7,543			
計		7,543	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の  
 金額が支出されている者について  
 記載する。費目と使途の双方  
 で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	三菱電機㈱	静止地球環境観測衛星(ひまわり8号及び9号)の製造等	7,543	4	非公表
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					